

麻績村の教育方針に関する研究検討委員会

「第1回保育園・学校部会」 会議録

日時 平成29年6月29日 午前9時

場所 地域交流センター 第3・4研修室

出席委員 市川祥介(麻績村教育委員) 小山正文(麻績村教育委員)
高坂 徹(筑北中学校長) 清沢 剛(筑北中学校教頭)
宮下智恵美(筑北中学校教務主任) 福田弘彦(麻績小学校長)
北條泰瑞(麻績小学校教頭) 臼井孝夫(麻績保育園長)
小山芳道(筑北中学校 PTA 会長)
欠席委員 宮川裕満(学校組合教育委員) 鳥海 康(麻績小学校教務主任)
刈間伸一(麻績小学校 PTA 会長)
首長部局 高野忠房(麻績村長)
教育委員会事務局 臼井太津男(教育次長) 尾和正行(主事)

1 開会

教育次長：おはようございます。本日は、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。麻績村の教育方針に関する研究検討委員会「第1回保育園・学校部会」を始めさせていただきます。

2 あいさつ

教育長：お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。今までの検討会の中で「部会を立ち上げる」ということで、本日第1回目の部会を開きたいと思っております。なお、本日につきましては、保育園・学校部会となります。皆様、お忙しい中での日程調整でできる限り多くの方が出席できるようにということで本日に決めさせていただきました。保育園・学校部会につきましては、麻績村で進めていきます「一貫教育」について検討をしていただいで、子どもたちに繋げていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。皆様、ご存じのとおり昨日、筑北村より学校組合からの脱退

の要望が届きました。平成 32 年 3 月 31 日で脱退ということでございますので、4 月 1 日からの体制がしっかり取れるようにと考えておりますので、皆様方の忌憚のないご意見をご要望をお聞きする中でしっかり計画を立てていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

麻績村長：あらためまして、おはようございます。今日は、何かとご多用なところお集まりいただきましてありがとうございます。この会議の目的につきましては、教育長さんの方から述べていただいた訳でございますが、教育に関しましては、この地域の皆様が関心を持っておられると思います。先ほど、お話があったとおり昨日、関川村長さんが見えられまして、中学についての考え方、「平成 32 年 3 月 31 日をもって、それぞれの形でいきたい」ということをおっしゃっておりました。大変残念である訳でございますが、村の方針ということでしたので、やむを得ないことだと思っております。麻績村は麻績村としてしっかりとした方向を探していかなければいけないと思っております。本日に至るまでに教育委員会さんでは最終答申を出していただき、理想に近い内容で大変感謝をしている訳であります。教育というのは人づくりですが、人づくりは地域づくりに繋がるものであると私は思っております。教育がいかに大切かと思っております。この部会では、詳細について検討していただくという訳であります。ぜひ理想でも結構ですので、「これからのあるべき姿」というものを探してほしいと思っております。そのことが、行政・村の力となると思っておりますので、ぜひそういったことを示していただきたいと思っております。最近、私が子どもたちを見て気になっていることが「健やかに育つ」という部分なのですが、体の方が心配ということで例えばですが、「麻績村の子どもたちの肥満率が県また全国の平均を上回っていること」。田舎の方がそういった傾向にあるということのようですが、松川村さんが信州大学と提携をして子どもたちの肥満の調査をしながら子どもたちの健康をどうやっていくのかということを始め、子どもに関わるお母さんの意識を変えていき、そのお母さんが家庭の中を変え、その主人・家族が健康についての考えを改め、そうして村の健康づくりに繋がったという例があります。こういったことは、大学と連携していけばできることですので、この

部会でも村内だけではできないことも外部の大学と連携等も含めて考えていただければと思っております。ぜひとも、次の時代を担う子どもたちのためにご協力を賜りたいとお願いを申し上げ挨拶とさせていただきます。本日は、本当にありがとうございます。

3. 会議事項

(1) 麻績村の教育方針に関する研究検討委員会及び保育園・学校部会について

教 育 長: それでは、本日の会議の流れについて説明させていただきます。規則にもございますが、次第の(2)部会長の選出が終わるまでは、私の方で進行させていただきたいと思っております。部会長さんが選出された後の会議の進行は、部会長さんの方でしていただきたいと思っております。本日、日程が合わなかった方につきましては、情報をお繋ぎする中で次回に繋げていきたいと考えております。

それでは続いて、この会議の説明をさせていただきます。(麻績村の教育方針に関する研究検討委員会規則について説明)

(2) 部会長の選出

教 育 長: それでは、部会長の選出に移ります。部会長につきましては、部会の委員の互選になりますので、誰かご推薦いただければありがたいと思っておりますので、お願いいたします。

委 員: 教育委員の市川さんをお願いしたいと思っております。

教 育 長: 今、市川委員さんを推薦する声ありがとうございました。その他にございますか。それでは、市川委員さんが部会長についていただくことでよろしいでしょうか。

全 員: (賛成)

教 育 長: それでは、前の席に移動していただいて、進行をお願いいたします。

部会長: よろしくお願ひします。それでは、規定にありましたが、副部会長さんは部会長が指名ということで指名させていただきます。教育委員の小山委員さんをご指名したいと思いますが、皆さんいかがでしょう。

全 員: (賛成)

(3) 研究検討事項

部会長: それでは、研究検討事項ということで、資料が出ておりますので、事務局の方から説明をいただき、皆さんのご意見をいただきたいと思ひます。それでは、事務局お願ひします。

教育長: (資料確認)

(麻績村の教育方針に関する研究検討委員会の概要について説明)

部会長: ご意見ご質問等ございますか。最終答申と重なる部分も多くありますので、またご覧いただければと思ひます。それでは、引き続き事務局説明をお願ひします。

教育長: (公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引 ～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～及び小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引に沿って説明)

部会長: 文部科学省の説明の中に、麻績村の立場ではっきり申されましたが、1つは「併設型の小中一貫教育を目指す」ということ。2つ目は、「特区申請はせずに、それに準じたもの」ということ。説明について、ご意見ご質問等いかがでしょうか。

委員: 話に頭が追い付いていない状況ではあります。率直な気持ちとして、今現在もそれほど大きい規模の学校ではないので、それが麻績村だけとなったところで、私自身はそれほど大きな問題じゃないのかと思ひますが、子どもたちはかわいそうだなと思ひます。

部会長: その他に何かございますか。

委員: 併設型というお話しでしたので、中学校と小学校、保育園と物理的な距離がある中でできることを探して、保・小・中で麻績の子一人ひとりの良さを繋いで伸ばしていくことが理想かと思いますが、何が無理なのか、何ができるのか。今あるものを基本にして充実させることになると思います。ただ、麻績としての「これは大事にした」というものを共通認識してやっていければと思います。

部会長: 最終答申でも、具体的な項目を出しておりますので、そんなところも参考にできるのかと思います。中学校は何かございますか。

委員: 個人的な考えになりますが、お願いします。

(麻績村の保・小・中一貫教育に係るメモに沿って説明)

最後のページに筑北村第二次子ども支援プロジェクトという資料を付けさせていただきましたが、こういうものを麻績村もやっていくのかなと思いましたが、独自でやっていくと将来的に筑北村さんと一緒にという時にすり合わせが大変になると思います。

2 ページからの資料は小中一貫、連携とはなんなのかが分かりやすく書いてある資料なので、見ていただければと思います。

部会長: ありがとうございます。具体的にご提案をいただきました。今の話も踏まえた中でご意見等いかがでしょうか。

委員: 保・小・中一貫教育の取組におきまして、小学1年生がスタートラインになるとすれば、保育園はそのための準備体操や助走期間になると思います。一貫教育がスムーズにスタートできるようなお手伝いを保育の中でしていきたいと考えております。共通した認識をいただきましたら保育園の中でも共有していきたいと考えております。

部会長: 難しいお立場だと思いますが、ぜひ今のようなお考えと一緒に進めていただければと思います。

委員: 中学校の校長先生の資料にあるように、ある程度タイムテーブル的

なものを考えていかなければいけないと思いますので、平成 32 年 4 月から麻績村としてのスタートができるように、一貫や連携できるところを整備していきながら進めていければと思います。

部会長: 各委員の方からご意見をいただきましたが、私の方でも 3 点ほど申し上げたいと思います。

1 つは、「ゴールがはっきりしている」ということであります。

保・小・中一貫教育をどうするかというゴールが見えておりますので、逆に言えば先延ばしにすることはできないということです。今の子どもたちへの責任を果たしつつ、3 年先のゴールを目指すということが 1 つ特色になると思います。

2 つ目は、職名での辞令いただいたと思いますが、皆さんがこれから 3 年間替わらずに委員でいるということは無いんじゃないかと思います。ですので、中学校の校長先生や副部長からあったようにタイムテーブルをきちんとして、「少なくとも 1 年目はこのことをはっきりしていかなければいけない」ということを常に皆で共有していかないと委員が替わるたびにスタートに戻るということになりかねませんので、積み上げを大事にしていかなければいけないと思います。

3 つ目ですが、私たちは委員であると同時に実施主体者でありますので、学校の先生方、保育士の方たちがやらされてやるのではなくて、自分から進んでやるような運営をしていく必要があります。そのためには、色んな要望が出てくると思います。「先進地の視察」や「県教委等からの専門員の派遣」等を我々だけでなく、できるだけ保育園、小学校、中学校の皆さんでそういった研修を重ねていければと思っています。

それでは、先ほどから話が出ております「タイムテーブル」について次回の内容も踏まえて、ご意見をいただければと思います。

委員: 私もまだ勉強不足ですので、タイムテーブルの中にぜひ「専門家の方のご意見」や「先進的にやっている学校の視察」を行うことで、より話し合いも充実して、麻績村では何ができるのかが明確になってくると思いますので、ぜひ早い段階で進めていくのと同時にその辺も行っていただきたいと思います。

部会長：関連したご意見ございますか。

委員：教頭先生のおっしゃるとおりだと思います。専門家の意見や視察を行うのも、この部会で行くだけでなく小中学校の保護者も含めたものの方がいいんじゃないかと思います。

部会長：その他にご意見ございますか。

委員：学校長の方から出された資料の連携と一貫の違いの部分で教職員も十分には理解できていないので、これから先、村で目指すのは一貫教育なので、何をどのようにしたらいいのかというところ、目指すところで中学校卒業の時にどのようにさせたいのか。それに対して、小規模校である本校ではどこに課題があって、どのようにしたいのかが分かると、今ある活動をどのように小学校、中学校で充実させたいのかとなりますので、目指すものを皆で共有して、課題になっているところを協力してやっていくようになるんじゃないかかと思っています。そのためには、タイムテーブルは参考になると思いました。

委員：こういったことを進めていくときに、現場の先生たちが理解して動くことが一番大事だと思っています。そのためには、研修等を実施して「村としてこういうことをやっていく」という方針を先生方に伝えていくことが大事だと思います。それをする中で先生方に考えていただけるようになるんじゃないかかと思っています。実際に子どもと接する先生たちが思いを受けて「麻績村の子どもたちの為にどうしていこうか」と考えていけるように先生たちに浸透していく会等があるといいと思います。

部会長：村長さんもお話をさせていただきましたし、この部会の委員の皆さん自身も職員の皆さんにそういった話をしていただければと思います。いろんな機会を活用しながら進めていければと思います。その他にご意見ございますか。教育長さん、今までのところでご意見いただけますか。

教 育 長:非常に良いご意見をいただきました。教頭先生からもありましたが、実際に行っているところへ視察に行くことも良いのかと考えております。文書からだけでは呑み込めない部分もございます。学校の先生方もそうですが、住民の方にどうやって伝えていくのかというのも重要だと思います。特に、中学校の校長先生から話のあったコーディネーターをどうしていくかという部分はできるだけ早く検討したいと思いますので、よろしく願いいたします。

部 会 長:それでは、次回そのような方向で進めていくとすれば、中学校の校長先生からのタイムテーブルの1番を話し合う前に「いったい、どういう子どもたちを目指すのか」というところを中心に話し合いをしつつ、そのための洗い出しに踏み込むということによろしいでしょうか。

全 員:(賛成)

部 会 長:それでは、それぞれがグランドデザインを持っておりますので、それを基にしながら、「一貫教育を進める上では、こうじゃないか」というところまで深めるのが1つ。もし、研修について具体案があれば、その辺りも提案いただくと。次回はそのような流れになると思います。

教 育 長:次回も都合をつけて出席していただければと思いますが、平日に先生方3人に出席いただくというのは難しい部分がありますので、学校内で調整していただく中でうまく都合がつく範囲で出席していただけるとありがたいです。

部 会 長:そうですね。校長・教頭・教務主任3人で出ていただくのは大変ですので、校長先生と教頭先生や校長先生と教務主任あるいは校長先生の都合がつかなければ教頭先生とうまく調整していただければと思います。

4 その他

部会長: それでは、その他にございますか。3校連絡会は、その中で専門家の話を聞いたり、どこかに視察したりということもできますか。

委員: せっかく集まりますので、グループで分かれてワークショップ的にできれば、今までの部分についてそれぞれのグループで洗い出してもらおうということもできると思います。

部会長: 全職員が集まってやっている中で、担当同士で課題など話し合うことができますね。

委員: それまでにグループ分けができていればいいと思います。

部会長: 分散会の行うにも、一人の先生が色んな分野を担当しているということがあると思いますので、どれを優先するのかという原案も必要ですね。その他によろしいでしょうか。何か必要が出た場合は、事務局や部会長に相談していただければと思います。

5 次回開催日程

平成 29 年 8 月 1 日(火) 午前 9 時 00 分 ~

6 閉会

教育長: 本当に貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。今後もしもご意見を多くいただいて進めていければと思いますので、よろしく願いいたします。本日は、ありがとうございました。